

震災から2000日が経過しました

今年の8月30日で、東日本大震災が起きてから2000日を迎えました。死者15894名という数字は変わらなくても、時の経過は刻々と進みました。どうしても人というのは過ぎしことを「時が経つのは早いな」と感じてしまいます。その感覚は記憶を整理するために徐々に月単位、年単位に移り変わっていきます。「月命日や年忌法要」では、その悲しみを忘れることなく家族のために祈りますが、それを1日単位で数えていくと本当に長い時間が経ってしまいました。

私たちはニュースで地震・津波による被害や損失を数字で見ます。しかし「いのち」だけは数えてわかる価値物ではありません。あの2011年の3月のニュースで知らされた死者・行方不明者の数が増えていくことに私たちは絶望感さえありました。

ふとビートたけしの著書から考えたことがあります。

「一番大事なのは想像力じゃないかと思う」

「この震災を2万人が死んだ一つの事件と考えると被害者のことをまったく理解できないんだよ。」

「そんな風に数字でしか考えられなくなっちゃう。それは死者への冒涇だよ。」

「そうじゃなくて、そこには1人が死んだ事件が2万件あったってことなんだよ。」

(震災から間もないインタビューだったので数字は正確ではありませんが)



今年、日本で起こった自然災害。熊本地震、度重なる台風の被害によりかけがえのない「いのち」が失われました。生き残り、いまを懸命に生きているからこそ、悲しみを想像して寄り添うことができます。これからもその思いを忘れずに、可能な支援を継続していきます。

? 参加しませんか?

宇治川オープンラボラトリー公開ラボ

「災害をおこす自然現象を体験する」

2016年10月23日(日)

10:00~16:00 防災研究所にて開催!!

京大ウィークス2016のイベントです。(事前申し込みアリ)



昨年の様子

浸水ドア開閉

津波耐久体験



中学文化祭でも大活躍！

9月11日、あの日から5年と6ヶ月、中学校では仮校舎での文化祭が行われました。この日、実行委員会は講堂の壁面には東日本や熊本の災害の写真を展示し、地域の方々にも「被災地を忘れないで！」のメッセージを届けるための活動を行いました。オリジナル物品の販売や、募金活動を中学実行委員たちが総力を挙げ取り組みました。講堂を訪れた地域の方々から「頑張っていて感心だね。」と褒めていただき、隣接の公園での西陣マルシェでもたくさんの募金を頂きました。特におじいちゃんやおばあちゃんに好評だったのが手作り座布団と手作り草履でした。週明けには、「まだ残っている座布団や草履があれば下さい。」とわざわざ学校に来ていただいた方もいました。次回は「京フェスタ」11月23日祝府立植物園でも頑張ります。詳細は次号でお知らせします。



(物品の値段を実行委員たちが決めています。決めた値段をみんなで確認し、呼び込み開始準備OK)

初代委員長よりイギリスでも…

東日本大震災被災地応援実行委員会を立ち上げた西紋委員長は大学を卒業して現在イギリスに留学中です。先日メールと映像が送られてきましたので紹介します。

私は今、イギリスのポースマンという町に留学しています。こちらで日本の特集があり、東日本の大震災についての内容があったので急いで動画にとりました。日本とはまた違う視点で被災地をとらえていて興味深い内容です。福島原発の事故が主な内容です。委員会の活動の勉強にもなりそうなので送ります。
送られた映像には、立ち入り困難となっている福島の高橋となっている町が映し出されていました。

今…気仙沼の仮設

先日、気仙沼市の建築住宅課に問い合わせたところ、93カ所あった仮設住宅も規模の小さなところから解体が始まり、引き続き援助の必要な世帯は、大規模な仮設住宅への引っ越しによって対応しているそうです。鹿折中学校住宅は継続し、大峠山住宅はあと数世帯の移動を待っている状況です。

昨年の訪問は被災地を応援することだけではなく、被災地の方々から若い生徒に向けて励ましをいただいた印象を受けました。仮設住宅がなくなることは、衣食住の「住む」ことが保障されることですから、復興への大きな道しるべとなるでしょう。しかし未だ、土地の整備、雇用・地場産業の創出、交通の復旧などはとても時間がかかる作業なはずです。私たちはこれからも気仙沼市をはじめ支援を必要とする方と共に繋がり、その現状を「轍」の紙面で知らせていきます。